

“出会い、再会”

小林 桃代

今年の1月～3月の間、約1ヶ月半、避寒のためボルネオに滞在してきました。そもそも最初は、2006年にキナバル山登頂と、その後子供や孫達と合流してのバカンスで訪れたのがきっかけでした。それ以来体調とボルネオの気候の相性が良いこともあって、年1～2回程のステイを続け、今回で計6回ボルネオのお世話になっています。

行く度に、現地の方の中に顔なじみが増え、また、ステイをするKHCの会員他日本人の方々や様々な外国の方達との出会いがあります。今回の32日間のラナウ スラゴン・ホームステイでの滞在中に出会った方々の中には、日本とマレーシアの子供達の絵の交換展覧会を通して、両国の架け橋になろうと活躍していらっしゃる日本女性と、カダザンドスの女性と結婚しているその方の息子さん一家、また、自身の旅行体験を本にして出版しているこれまた一人旅の日本女性、そして、最良の友と一人よがりにも思っている素敵なMご夫妻・・・、と日本の中のしかも、自分の住む狭いエリアでは到底お会いすることもないような方達と出会えるということは海外ロングステイでの大きな魅力ではないかと感じます。また、諸外国からのスラゴン宿泊客の中には、タイ在住のドイツ人男性二人組、KK在住でお父さんがボルネオ各地で福祉活動をしているというイギリスの若い4人家族、またラナウゴルフクラブで開催されたジュニア・コンペ参加の子供に連れ添ってきた中国系マレーシア人、シンガポールからの親子連れ旅行者と、これもまた、様々な国の方達とお話をする良い機会となり、大変貴重な体験となりました。

1月25日、中国正月の大晦日に、オスマン博士の親戚の中国人のお宅に招待いただきました。そこでは、数えきれない程の大勢の中国系、マレー系、カダザンドス、・・・とその子供達との出会いがありました。個人の邸宅の中でこれ程の人数、例えていうと、東京の街中のスクランブル交差点の人口密集地に放り込まれたような、人、人、人と出会うということは日本では考えられないことでした。そのパーティには、ラナウ出身のマシディ氏(サバ州 観光・環境大臣)も出席されていました。若くて元気の良い大臣で、ウィットに富み、常々私の連れ合いが関心を持っている、カダザンドスと日本人の類似性やルーツに関して質問したときの答えが、「その昔、アダムとイブが出会って、リンゴを食べたからじゃない？」ということで、お説ごもつとも、と大いに笑わせてもらいました。

さて、現地の方々との再会といえ、スラゴン・ホームステイのルンキャン夫人(オスマン博士の奥様)、彼女は、お料理上手で、ジャングルから採ってきたという珍しい食材等でカダザンドス族の料理を食卓にのせて下さいます。他には、ラナウゴルフクラブのマネージャー、キャディーマスター、中国人のおじいさんキャディ、クラブハウスやレストランの女性スタッフ達・・・です。昨年1月、6月と2回とも出会っていたクラブハウスの高校生アルバイト ララが、今は仕事を探しにKKに行っていると聞き、会えずにガッカリしていました。ある日ラナウの街歩きの後、カンボンシロー行きバスマニの停車場にさしかかった時、バスの中から「MOMOYO！」という大きな声が聞こえ、びっくりしてバスに乗りこんだところ、そこにララを発見、友達二人と乗っており、何と「今、KKから戻って来た」とのこと、二人で肩を抱き合い大喜びでした。1年前に二人でキロロの「未来へ」を歌いながら、涙々のお別れをしたララ本人が私の名前を覚えていたことが、何にも換えられない喜びでした。スラゴンを尋ね

てくれるよう約束したところ、約束の日にゴルフから帰る私を3人でスラゴンのテラスで待っていてくれました。たまたま今回は習い始めのフルートを持って行っていたことと、折り紙と、「英語で折り紙」という本を持っていたので、折り紙を教えてあげたり、つたないフルートの伴奏とローマ字の歌詞をつけた楽譜で、「故郷」など日本の歌を合唱したりと、楽しい再会の時を過ごしました。ここでもKHC会員の方々に協力していただきました。ありがとうございました。ボルネオに出かける前、フルートの練習は、牛や馬が遊ぶスラゴンの果樹林の中ででもできれば、と思っていたところ、何とスラゴンに、半地下室のとても広く立派な「カラオケルーム」(今のところマレー、カダザンドスンおよび英語の曲のみ)が出来ていて、専らそこで練習させていただきました。M夫人のハーモニカ、オスマン博士の次男デールくんのギターで、音響効果バッチリ、気分よく三人のセッション(?)が実現しました。

「折り紙」は今回はじめて持って行っていたのですが、前述のマレーと日本の子供達の絵の交換展覧会がラナウの図書館で開催された時に、代表の方に頼まれ、同時に行う「折り紙教室」のお手伝いをKHCの女性会員の方達と行い、大いに役に立ちました。現地の大勢の子供達のキラキラ光る瞳に囲まれて、幸せな出会いを数多く出来たことは忘れられない思い出になりました。

のどかなカンボンでのロングステイが大好きになり、また、近々、訪れることにしています。しかし、ゴルフコースのマネージャーから、ただ「のどか」であるとばかり思っているはいけない、アウトサイドでは十分に気を付けなさい、と再三忠告されました。フィリピンやインドネシアからの不法移民が多くなって、カンボンでも多少問題があるようです。このような風潮にもかかわらず安心してロングステイを楽しめるようにと、スラゴン・ホームステイの宿泊者に対し、セキュリティ面でのサービスが強化されたそうです。具体的には、宿泊者は、自分専用のセーフティ・ボックスを利用することができ、鍵は自分で管理します。すべてのセーフティ・ボックスは、鍵がかかる部屋に保管されます。セーフティ・ボックスを利用するときには、ルンキャンさんか、ルンキャンさんが指定した人の帯同が必要になります。セキュリティを高めようとするとうるさくも生じます。スラゴン・ホームステイのすばらしいところは、あの果樹園の中のオープンでアットホームな雰囲気です。そのような雰囲気を損なうことなく安全なステイを満喫できることは、ありがたいことです。

今回のステイ中に開拓したラナウの「おいしい店」を紹介いたします。(ラナウ地図参照)

永新・・・中華料理、スープがとても美味しい。ポークはサーブされない。

双香東・・・中華料理、エビのサラダが美味しい。ポークもサーブする。

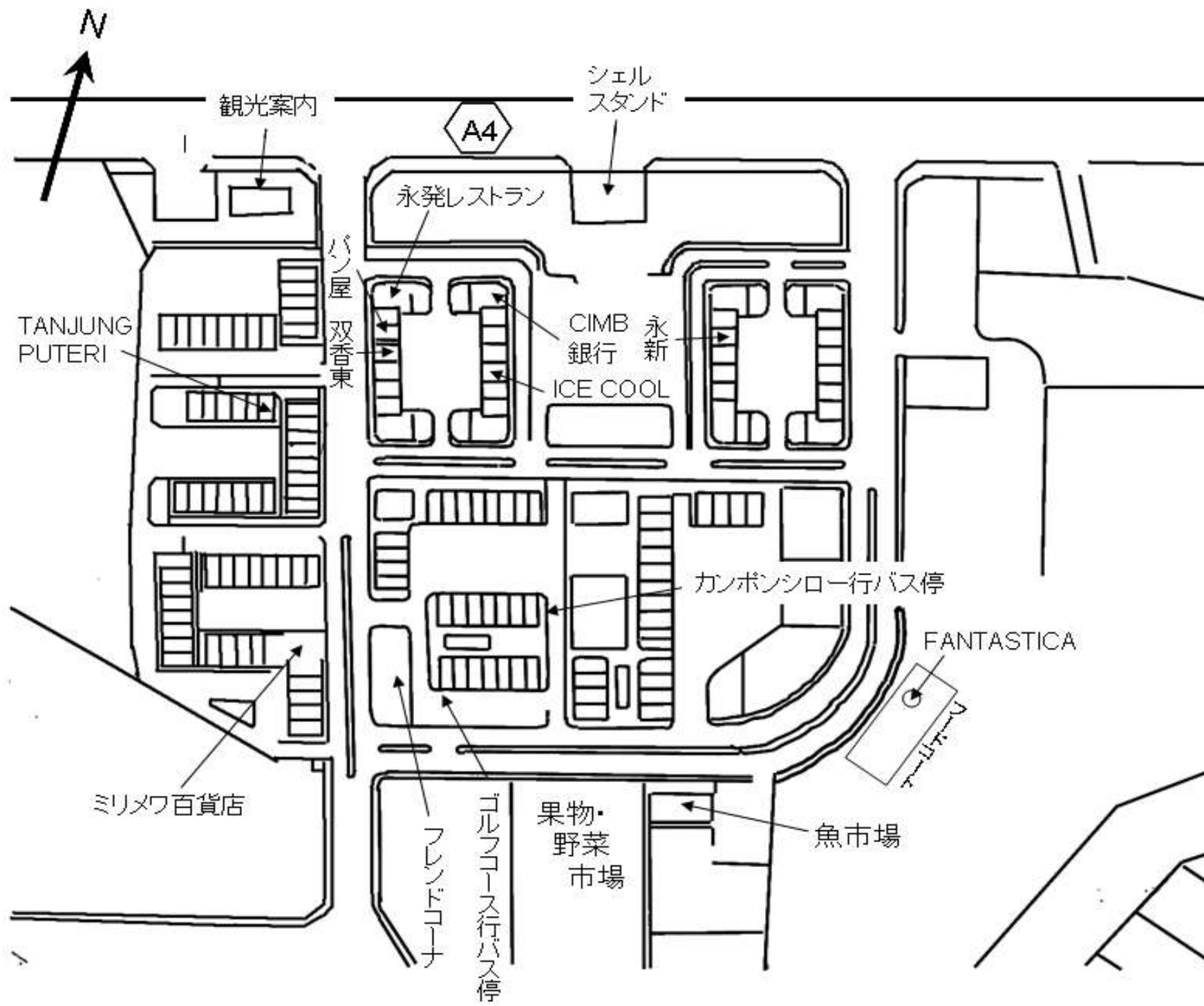
永発レストラン・・・中華料理、ポークもサーブする。

ICE COOL・・・マレー料理

TANJUNG PUTERI・・・マレー料理

FANTASTICA・・・マレー料理

以上



N

観光案内

A4

シェル
スタンド

永発レストラン

TANJUNG
PUTERI

パン屋
双香東

CIMB 永新
銀行
ICE COOL

カンボンシロー行バス停

FANTASTICA

ミリメワ百貨店

フレンドコーナ

ゴルフコース行バス停

果物・
野菜
市場

魚市場